

建築業界とLPガス業界との 情報交換会出席者名簿

平成25年 9月26日

(一社) 京都府LPガス協会

区 分	協会等役職名	氏 名
(一社) 京都府建設業協会	建築委員会委員長	市川 尚 <small>いちかわ ひさし</small>
	// 副委員長	絹川 雅則 <small>きぬかわ まさのり</small>
	// 委員	荒川 研 <small>あらかわ けん</small>
	事務局次長	山口 彰 <small>やまぐち あきら</small>
(一社) 京都府建築士会	常務理事	池内 隆人 <small>いけうち たかひと</small>
(一社) 京都府建築士事務所協会	会 長	上野 浩也 <small>うえの ひろや</small>
	副会長	高橋 宏 <small>たかはし ひろし</small>
	//	下西 伊佐男 <small>しもにし いさ お</small>
	専務理事	八木 裕有 <small>やぎ ひろくに</small>
(一社) 京都府LPガス協会	会 長	小澤 八十二 <small>おざわ やそじ</small>
	副会長	小中 達磨 <small>こなか たつま</small>
	// (経済部会長)	深見 英雄 <small>ふかみ ひでお</small>
	//	福井 康裕 <small>ふくい やすひろ</small>
	//	小谷 幸一郎 <small>おだに こういちろう</small>
	理事 (競エネ都市ガス対策委員長)	辻村 好崇 <small>つじむら よしたか</small>
	// (競エネ電力対策委員会委員)	川勝 啓史 <small>かわかつ ひろし</small>
	// (競エネ電力対策委員会委員長)	日下 英明 <small>くさか ひであき</small>
	左京支部長	宮野 勇 <small>みやの いさむ</small>
	東山支部長	山上 秀市 <small>やまがみ ひでいち</small>
	舞鶴支部長	水野 伸昭 <small>みずの のぶあき</small>
	協会監事所属会社	秋田 敏伸 <small>あきた としのぶ</small>
	専務理事	吉岡 一寿 <small>よしおか かずとし</small>
	事業部長	坂江 慶則 <small>さかえ よしのり</small>

<主な意見>

○建築業界側から

- ・京都市内ではL Pガスへの関心が薄く、都市ガスからL Pガスへの転換は難しいが、省エネ・エコや災害への強さをもっとPRすれば動く。南部学研都市近辺では特に都市ガス普及に力が入っている。(建設業協会)
- ・L Pガスに付きもののボンベ・タンクの規制、管理問題、デザイン性などお客様の負担感やイメージ先行をクリアする宣伝がもっと必要(〃)
- ・L Pガスのメリットだけでなくデメリットも正確に出しそれを乗り越える良さを比較しての説明・宣伝が必要だが、一方ファミレスではL Pガスがかなり普及している事を見ると、PR不足だけではないかとも思うが。(建築士事務所協会)
- ・お客様からはオール電化要求が強いが、IHでもデメリットはあるけれど、炎が見えない電気の方が安全との考えが根強くあるのは事実(〃)
- ・L Pガスは、知らない間に供給業者が代わるなどユーザー無視の姿が見られる。また、行政に自家発電機を売り込んだが、ランニングコストが高く都市ガスでないと無理と言われた。福祉施設も経済性最優先でエコジョーズでもガス代が高いと言われるなど厳しい見方があるが、今回の台風18号災害ではプロパンガスの機動性の高さを痛感した。(建設業協会)
- ・寒冷地では、冬場電気エアコンがよく止まるので、ガスを進めている。(〃)
- ・建築主にとってはどれだけ経済的メリットがあるかが第一で、経済性を超えて、災害時の強さだけでは進められないが、L Pガスの利点をまず当会会員に広めるためL Pガス協会が当会賛助会員になっていただければ会員を集めたPRの機会を提供したい。(建築士事務所協会)
- ・都市ガスが入る、下水道が通るのが都市化のバロメーターとなっており、覆すのは難しい。会員の勉強会でL Pガスをテーマにしても人は集まらない。(建築士会)

○L Pガス協会から

- ・PR不足は常に考えている。広報誌は年2回発行で各消費家庭に届けているし、適宜リーフレット、チラシの配布でPRに努めてきているが、一般家庭までどの程度届いているかはつかめない事もあり、関係業界同士の交流により広くお客様のL Pガスに対する意識も聞かせてもらえたらと考えている。建築業界の方からPRの仕方にヒントがいただければ大変ありがたい。
- ・経済性や都市化を優先に、都市ガス区域は都市ガスでとの考えもあるが。東南海南海地震の確率の高さや地球温暖化が急速に進み日本全体でこれだけ大規模災害が頻発すると、家を作るにもリフォームするにも防災の観点を抜きには語れないモードに入っているのは事実である。
- ・分散型エネルギーのL Pガスは、機動性を重視され、協会及び各支部と市町村との防災協定で災害時避難場所には直ちにL Pガスを搬入し被災者を助けるシミュレーションはできているが、L Pガス設備が常設されていれば軒下在庫のL Pガスで多くの人が、炊き出し、給湯、暖房、照明(L Pガス発電機があれば)の機能を受受できる。家庭においても同様であり、是非この観点を重要視していただきお客様

に対応いただきたい。

- ・設計の段階で多様なエネルギーを是非ご提案いただきたい。都市ガスエリアでもお客様から電気、都市ガス、LPガスはどう違うのかとの質問はかなりある。

- ・オール電化は原発全停止により事実上破綻している。ハイブリッド給湯器は限りなくエコキュートに近づき、実態はエコキュートの「省エネモード」使用は1割程度でしかなく、ほとんどが「おまかせ」あるいは「最大沸上モード」での使用であり、エコジョーズの方が省エネに勝ります。北部の建築士さんはまずオール電化を勧めれば間違いないとのお客様対応を改めていただければありがたい。

台風18号で福知山市の由良川筋が大変な水没被害を受け、2m程の浸水家屋は給湯器が使用できず手持ちの給湯器を運び込みシャワーを使っていただけよう翌日にはメータ点検の上設置した。LPガス業者にしかできない緊急対応で、オール電化家庭は停電のままだったし、電気事業者の早くてきめ細かい対応はまず無理ではないかと思う。